

争点としてのジェンダー規範を反省的に吟味する力を培う歴史授業開発
一高校「歴史総合」単元「自分らしく」って難しい？仕事と家庭の間で揺れる私たち
：近代ジェンダー規範の展開と争点をもとに考える」の場合一

教科・領域教育専攻

社会系コース

松本 知夏

指導教員 梅津 正美

1. 本研究の目的と問題意識

本研究の目的は、争点としてのジェンダー規範を反省的に吟味する力を培う歴史学習の単元を開発し、その特色と意義を述べることである。

教育目標としての争点としてのジェンダー規範を反省的に吟味する力とは、子どもが、現代において争点を形成しているジェンダー規範について、近代における起源と来歴の認識を通して、自らの生活や行為を振り返り、再方向付けする能力である。

本研究において視点となるジェンダー規範とは、文化的・社会的に定義された性差に基づいた人々の行為の拠るべき規準を指す。具体的には、「男はこうあるべき」「女はこうあるべき」といった考えや価値観、性別に基づく役割分業のことである。

グローバル化によって社会は急速に変化し、人々の生き方は多様化している。そのような社会では、多様な生き方や価値観を互いに認め合うことが重要となる。価値観は、歴史的な社会状況のなかで形成され、人々の行為を方向づけ、意味づけている。人びとの行為の背景にある多様な価値観を知り、自己の価値観を見つめ直し、再び方向づけていくことを通して、相対的に生徒自身が社会の中で生きる自分自身の姿を考える契機をつくりたい。

また、本単元は、令和4年度から実施される

高等学校地理歴史科歴史総合を見直し開発するものである。

2. 先行授業の特質と課題

歴史教育における「ジェンダー学習」の先行研究を、解釈分析型、社会問題分析型、価値判断型、規範吟味型の4つに分類して検討した。

各類型の事例となる先行授業の検討から導き出した歴史教育における「ジェンダー学習」の改善課題は以下の三つである。

- ①ジェンダー規範の歴史的な重層性を重視し、一つの視点ではなく、複数の立場からその葛藤について検討させる。
- ②自己の日常生活をふりかえり、そのなかで感じる葛藤が、規範の相違や対立によってもたらされていることに気づかせることで、課題の現在性と自己言及性を担保する。
- ③「どんな規範をもつか」を選択・判断させるのではなく、規範との向き合い方や他者の規範に対する自己の態度を振り返り、再方向付けすることを目的とした歴史授業にする。

3. 授業構成論

本授業は、さまざまな立場や時代、社会状況の違いから争点を形成しているジェンダー規範について、その歴史的な起源と来歴の認識を通して、人々の行為がそれぞれのもつジェンダー

規範によって方向付けられていることを理解し、自らのジェンダー規範に対する考え方や態度を振り返り、再方向付けすることによって、反省的に吟味する力を育成することを目標とする。

高等学校地理歴史科歴史総合の内容構成の原則については、第1に、近代ジェンダー規範の起源と来歴を教育内容とする。第2に、近代ジェンダー規範がもたらす争点を教育内容とする。第3に、さまざまな立場の生き方や考え方を示し、ジェンダー規範に対する態度を反省的に吟味できるように内容を構成することとする。

授業過程は、Ⅰ.現代社会における争点としてのジェンダー規範とその課題の認識形成、Ⅱ.近代ジェンダー規範の歴史的な認識形成、Ⅲ.現代社会における争点としてのジェンダー規範の反省的吟味の3段階である。

4. 「歴史総合」単元「自分らしく」って難しい？仕事と家庭の間で揺れる私たち：近代ジェンダー規範の展開と争点をもとに考える」の開発

開発した単元において、パートⅠでは、現代社会において「自分らしい」生き方と「女性として求められる生き方」についての葛藤を抱える女性たちの事例から、争点としてのジェンダー規範と、それに対する現在の自分の考えの認識を形成する。

パートⅡでは、パートⅠのジェンダー規範の歴史的な起源として明治～大正時代を生きた女性の事例から、近代ジェンダー規範の成立と社会的背景についての認識を形成する。また、その成立期における社会変動のなかで葛藤を抱えることになった女性たちの社会的な立場や階級等から、当時の争点を理解し、ジェンダー規範の役割についての認識を形成する。

パートⅢでは、戦後から1970年代にかけての社会変動を取り上げ、人々を取り巻く社会状況の変化やジェンダー規範に対する考え方、生き方の変化について多面的・多角的に検討・吟味する。ジェンダー規範や社会の変化をふまえ、最初の授業でのジェンダー規範に対する自身の考えや態度を振り返り、今後どのように対峙していくか、生き方やあり方を再方向付けする。

5. 成果と課題

本研究で開発した単元は、近代ジェンダー規範が成立した歴史的な社会変動のなかで生まれた人々の葛藤について比較・認識することで、ジェンダー規範が私たちの生き方・あり方にどのような影響を与えるかについて反省的に吟味することを目指した。生徒たちが自分らしい生き方やあり方を実現させるために、規範への向き合い方や態度を身に付けさせることが本授業の最終的な目標である。

本単元は、歴史総合を見通して、課題の現在性と自己言及性を考慮したうえで選択した主題であり、通史としてではなく、よりマクロな社会変動をとらえるための歴史学習の授業過程を示すことができたのではないかと考える。

しかし、乗り越えるべき課題は多い。まず、本単元は「歴史総合」を見通したものであるにもかかわらず、日本史中心の内容構成にとどまった。世界史やグローバルヒストリーを含め、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることのできるように内容構成を行う必要がある。また、本研究は未実践のため、本単元で用意した資料が効果的であるかどうかは不明瞭であり、争点としてのジェンダー規範を反省的に吟味する力をどのように評価するかについても妥当性や有効性を検証する必要がある。